主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・R1年度)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	総合政策部	
	17100	シティプロモーション推進事業	課名	政策課 広報秘書G	
	施策の大綱	05:市民力・地域力の活性化	財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	02:市民参画・協働の推進と多様な交流活動の促進		款	02:総務費
	施策の方向	04:移住交流の促進		項	01:総務管理費
戦略プロジェクト	05:「そして、親となるまち」プロジェクト	目		02:広報活動費	
事業予定期間	H 29 ~ R - 年度		主な根拠法令要綱等		

② 目的・概要	対象	市民及び市外の人
	目的	本市が「訪れるまち(交流人口の増加)」「住むまち(定住・移住人口の増加)」として市内外の人から選ばれるよう、市民等のまちに対する愛着や誇りの醸成を基礎として、本市の魅力を創造し、磨き上げ、まちのイメージを向上させる。
概要	平成28年度に構築したシティプロモーション専用サイトの各種コンテンツの更新・充実を図るとともに、SNSや広告への掲載を通じて、市内外に対し積極的な情報発信を行う。	

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ○シティプロモーション専用サイトの管理・コンテンツの更新 ○シティプロモーションブランドの啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドロゴの活用 ・ブランド冊子の製作 ○全国シティプロモーションサミットへ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○シティプロモーション専用サイトの管理・コンテンツの更新 ○シティプロモーションブランドの啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドロゴの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○シティプロモーション専用サイトの管理・コンテンツの更新 ○シティプロモーションブランドの啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドロゴの活用 	
	年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○シティプロモーション専用サイトの管理 <ul style="list-style-type: none"> ・部署内ミーティング:11回開催 ・イベント情報:582件、ニュース情報:86件 ・ライフスタイルインタビュー:1件追加 ・フリップサポーター:12組追加 ○シティプロモーションブランドの啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・CATV特集番組制作:2番組 「創業支援 夢とアイデアをカタチに」 「心地よい加太の亀山ぐらし」 	<ul style="list-style-type: none"> ○シティプロモーション専用サイトの管理 <ul style="list-style-type: none"> ・部署内ミーティング:11回開催 ・イベント情報:607件、ニュース情報:113件 ・ライフスタイルインタビュー:1件追加(延べ9件) ・フリップサポーター:15組追加(延べ39組) ○シティプロモーションブランドの啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・CATV特集番組制作:2番組 ・野村証券津支店でのPR(9~11月) ・行政出前講座:1回 		
事業費	計画額	事業費	5,300千円	2,700千円	2,700千円
		国庫支出金	2,650千円		
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源	2,650千円	2,700千円	2,700千円	
	予算額	事業費	1,238千円	2,650千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
その他					
一般財源	1,238千円	2,650千円	0千円		
決算額	事業費 ①	1,188千円	2,090千円		
	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
一般財源	1,188千円	2,090千円	0千円		
人件費	総人件費 ②	3,840千円	3,892千円		
	一般職員	3,840千円	3,892千円		
	所要人員	0.50	0.50		
	臨時職員等	0千円	0千円		
総コスト(①+②)		5,028千円	5,982千円		
受益者負担率		0.0%	0.0%		

			平成29年度	平成30年度	令和元年度	
④ 指標	①	名称 シティプロモーションブランド啓発企画数	計画値	2	3	4
		民間企業、市民団体とタイアップしたブランド啓発の企画数	実績値	2	3	
			単位	件	件	件
②	名称 シティプロモーション専用サイト訪問者数	計画値	50,000	80,000	100,000	
		実績値	36,646	68,115		
		単位	人	人	人	
③	名称	計画値				
		実績値				
		単位				

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 キャッチコピー「住めば、ゆうゆう。」を浸透させるため、広報、行政情報番組、フェイスブックなどの媒体を使って発信する。シティプロモーション活動を行う際には、市民や事業所などとの連携の可能性を検討する。市のイメージを高められる取り組みについて積極的に報道機関へ情報提供を行うとともに、近隣市からの転入促進を意識したプロモーション手法を検討する。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 キャッチコピー「住めば、ゆうゆう。」を浸透させるため、広報、行政情報番組、フェイスブックなどで情報発信するほか、かめやま出前トークに新たなテーマとして、シティプロモーションの取組紹介の内容を設けた。事業者との連携として、野村證券津支店のショーウィンドウを活用したプロモーション活動を行った。伝統行事を通じた三世代交流や地域における安心感に焦点を当てたプロモーション動画を制作し、その過程や放送について報道機関に情報提供を行った。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 年間を通じて広報の発行時期に合わせた部署内ミーティングを行い、シティプロモーション専用サイトのイベントやニュース情報を定期的に更新した。フリップサポーターやライフスタイルインタビューなどサイト掲載内容を更新した。子育て世代の専用サイトの利用を促進するため、年度当初に保育園・幼稚園などを通じて周知チラシを約2,000枚配布した。行政情報番組提供事業と連携し、創業支援や伝統行事「亥の子」を通じた三世代交流から生まれる地域の安心感を伝える特集番組を制作し、専用サイトに動画を掲載した。市外でのプロモーション活動として、野村證券津支店のショーウィンドウを活用して3か月間の展示を行った。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 専用サイトのイベントカレンダーやニュース情報を定期的に更新することで、目標値の8割を超えるサイトアクセス数を得ることができ、市の催しや行事、各種制度を広く市民に周知することができた。フリップサポーターの協力を通じて、子育て環境や伝統行事、人同士のつながり等が、本市の魅力であることを再認識していただき、その魅力を自らの言葉で専用サイト上でアピールしていただくことで、信頼性の高い情報発信を行うことができた。特集番組へ市民や市民活動団体などが出演していただくことで、まちへの愛着や誇りの醸成につなげることができた。野村證券津支店でのプロモーション活動を通じて、市の認知度の向上や来訪促進につながった。	B まずまず成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 シティプロモーション専用サイトを継続して定期更新し、まちの魅力や市のイベント情報などを発信する必要がある。専用サイトの更新や動画の制作に市民や事業所などを巻き込み、自らが魅力発信の担い手であることを意識してもらう取組が必要である。専用サイトだけでなく、各種広報媒体を連動させ、効果的な情報発信に取り組む必要がある。話題性や新鮮さを意識した報道機関への情報提供が必要である。シティプロモーション戦略の重点プロモーション期間が次年度で終了するため、戦略を検証する必要がある。	今後の方向性 ☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 部署内ミーティングを継続して開催し、シティプロモーション専用サイトの定期更新を行い、サイトアクセス数の増加に取り組む。市民や市民活動団体の協力を呼びかけ、まちの魅力発信につながる動画を制作する。各種広報媒体の特徴を意識して、それを連動させた効果的な情報発信を行う。重点プロモーションのメインターゲットエリアである津市・四日市市・鈴鹿市と本市との間での人口移動などを調査するとともに、外部委員の意見を聴取し、戦略の検証を行う。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 シティプロモーション活動を通じて、市民のまちへの愛着を醸成することができる。また、市民から市民への情報や魅力の伝達が期待できる。新聞等のメディアに市の取り組みやまちの魅力が取り上げられることで、本市の良質なイメージが市内外に発信できる。	
対応時期		令和元年度	

【1次評価者】	総合政策部 政策課 広報秘書グループリーダー 松岡 保範
【最終評価者】	総合政策部 政策課長 笠井 武洋

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	B	A			
	成果	B	B			